

ウータン

HUTAN

(森という意)

No.6 1989.125

発行 森と生活を考える会

郵便振替 大阪3-3880

大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308

「自然を返せ! 関西市民連合」事務所気付 ☎06-372-1561

定価-部 100円

年会費 1000円



熱帯林伐採を問う

夫水、ダム開発とは

88年は洪水が相次いだ。ペルー、ラデシユでは8月に国王の死を、11月にはサイクロンがおそった。フィリピンやベトナム中部でも10月に大洪水があった。フィリピンやバンブララデシユでは隣年ぐらゐに大洪水が起き、被害を出している。

ハ一年、ネパールでは開発援助と称し、ダムを建設したものの、森林破壊のために決壊して、千名以上が死んでいる。何のための、誰のためのダムなのか。

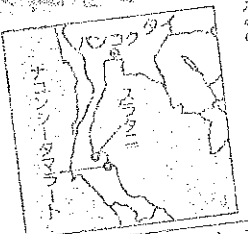
森林開発、道路、ダム開発に多額の政府開発援助費を注ぎ込む日本。サラワクでも、丸紅や前田建設等が住民を追い払ってバタン・アイダムを造った。これ、いいのか開発援助か。

東南アジアの森林破壊進む

開発・森林が原因
 シンガポールで二十一日、環境保護局は東南アジアに及ぶ大規模な森林破壊が、特にインドネシアを始めとする東南アジア諸国で、森林破壊が年々進み、地球の気候環境への影響が懸念される。大洪水、土壌崩壊など、大規模の森林破壊が出ている。専門家によると、外貨獲得のための木材伐採と国内移住政策による森林の破壊が原因だとされている。

インドネシアの環境保護局によりますと、同国の森林面積は約一億四千万ヘクタール、世界の年次増産で毎年九千万ヘクタール、政府開発援助で毎年十億ヘクタール、民間企業で毎年五億ヘクタール、過去二十五年に五千四百万ヘクタールの森林が失われたとされている。しかし、植林の進捗は八四兆からの五兆ヘクタールで、わずか十分の一にすぎない。

タイ南部のナコンシータマラート県の現場。大嵐に倒壊された木材が山崩れの水に押し流され、村を襲った



タイ大洪水 88.12.1
 ナコンシータマラート

森林の乱伐が主因

首相が表明 死者も430人超す

タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。

タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。

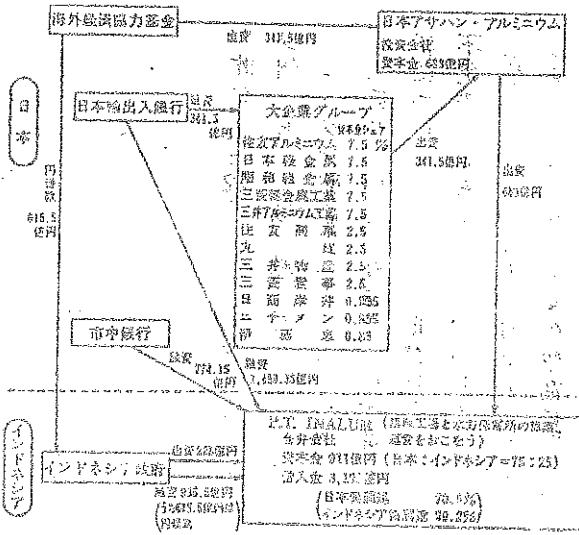
タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。

2万人の手袋を救済

タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。

タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。タイの大洪水は、森林の乱伐が主因である。首相が表明した通り、死者も430人を超す。

図 アサハン・プロジェクト資金の流れ



(注) 海外経済協力基金、日本輸出銀行の出資は全部は信託会社からの出資、財政協力からの借り入れである。

アサハン・ダムは

なぜ出来たのか？

西崎 良夫

敗戦後、日本は一九六五年を境にアジアへ巨大な海外投資を始めた。それは日米同盟に沿って、日本はアジアから天然資源などを確保するためだった。その端的な例がインドネシアのアサハン・プロジェクトだ。インドネシアの石油とLNGガスを確保する融資と、スマトラ島のアサハン川でアルミ精錬のための融資。七六年に政府は円借款の投資を初め、八四年に四千億円のプロジェクトができた。図のように資本金六八三億円は半官半民となっているが、企業は全額輸出銀行からの融資であり、借入金については日本調達の二二六三・五億円のうち六十%が輸出銀行の融資で、四十%が一般銀行からの借り入れによる。つまり、企業側は自己資金がゼロで巨大事業を行い、しかも、参加した企業は海外投資等損失準備金制度によって、他で儲けた利益を内部留保して、ぼろ儲けした。

このダムとアルミ精錬のプロジェクトは、企業にとって費用もリスクもなくて大儲けできるものだった。しかしトバ湖やアサハン川が汚染され、川沿いの森は次々と焼き倒されたという。そして、日本はアジア各国にダムや道路、発電所などを建設して行く。誰のためのダムなのか？ 誰のための開発なのか？ インドネシアには約三千億円以上の債務だけが残されている。インドネシアの森林面積は一億四千万ヘクタールだが、開発などで消失してしまっている。過去二十年に約五百万ヘクタールの森林が失われたという。今後、多額の債務が残るのならば、森や海が「償い」として取られないだろうか。

そればかりだけでなく、農村は貧困化して、多くの人が都市へ流れ、その都市がスラム化していく。日本は何を残していくのだろうか？

森に暮らす人々

川越年秋・サラワク現地からIII

牛島 美成子

昨年10月22日、マレーシアのサラワク州から、地域活動のリーダー・トレニングで研修にいらっしやつたマルコス氏を招いて、サラワクの森林の現状について、話していただいた。宣伝不足のせいもあってか、小じんまりの集りだったが、リランリスした雰囲気の中、サラワクの人々の生活に関してと熱帯林伐採に関して、理解を深めることができた。

マルコス氏はサラワクのミリ市出身で、イバン族の青年の地域活動機関で自立と生活向上のため働いている。

イバン族はサラワクの中でも30%の人口を占める民族である。この地方独特

のロングハウスという長屋に人々が住んで、一つのコミュニティを作って生活している。狩猟民族であるので、食糧、衣装、薬毒や踊りにその特徴が多く見られる。今でも祭りのときには、男性が目をモチーフにした盾を持ち、羽根のついた帽子を被り、腰に布をまく。女性は長い美しい腰布をまとう。ドラやゴングを鳴らし、終わりのないリズムで一人ひとりを披露する。それはどこでも見られる光景で、昔は儀式の一つだったとマルコス氏はいう。「主食は米です。80%の人々が焼畑をしている。一つのロングハウスには十五家族から百家族にも及ぶが、平均三十家族。各々のロングハウスで焼畑

するエリアが決まっています。二千から三千年の土階を築き、五、十年の周期で各地を転々とする。焼かれた土地は平等に各々の家族に割りふられる。先祖代々から決まっているので、土地争いは今さらない。切り倒した後、一ヶ月間乾燥させる。そして焼き払われて、次の日は植え付けが行われる。一週間から二週間です。これが決して森林伐採の主な原因になっているとは思わない。

先祖代々続けられてきたことは自然の周期の中で行われてきたことであるのに、政府はその周期を壊す勢いで伐採を進めるから問題になるのだ。

我々にとって森は生活の中心となっている。こんもりとしたジャングルは中に入り込むととても涼しく、静かで、人の気を落ち着かせる。そんな森林を、伐採業者が入りこんで切り倒すために汚染や洪水の原因となっている。」

マルコス氏が持つてきてくれたスライドでは、主な商品のメランティの選定を行っているところや巨大なトラックターが往復する伐採道路の様子、そしてブナン族の定住のために建てられた住宅の様子が伝えられた。

七〇〜八〇呎の高さで二かかえか三かかえ程の周囲で、約二五トンもの重さ、そういった木が周りのこれから伸びようとしている木々を巻き添えにして、切り倒されていく。伐採された木は、シャベルドーザーでキャンプ地に運ばれ、クレーンでタグボートに積み込まれて、支流から本流へ、本流から積み出し港へと運ばれる。

得られた富は平等には分配されない。ちよと戦中、日本兵が軍票でマレーシアの人から食料を賄えたにもかかわらず、マレーシアの人は軍票では何かを買うということが出来なかつたように――。マルコス氏はこれがその軍票

だ、と示して示してくれた。さびれた紙幣には日本政府と印刷されているのが見えた。

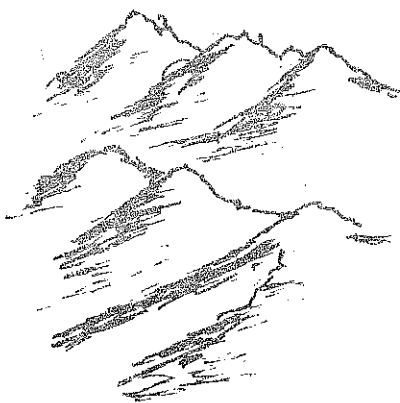
森を守るうとする人々が、やむなく伐採道路を封鎖するためにバリケードを築くと、軍隊や警察がやってきて脅迫し、解除させようと試みる。人々は声を大にして叫ぶしかない。

「我々は土地に依存して生きている。あなた方のように給料も賄賂ももらっていない。あなた方は米でも砂糖でも何でも買えるではないか。しかし我々は、食糧を見つけられる唯一の場所は森なのである。」

八七年十月には、カピットという町で伐採反対の人々によって、二四台のトラックターが破壊された。その時には千人もの兵士が首都クアラルンプールから派遣された。ブナン族が住むバラム川地区は、軍隊によって守られてい

るので写真を撮ることもできない。また二年前には、ベラガでトラックターが十台、ロトリが七台壊された。そのダメージでその会社は倒産してしまつたそうである。

目先の利益に振り回されている（そうせざるを得ないと割りきっている）利益追求者は、世界の気候も動かす。熱帯林の生命を手中におさめているかのように、好き放題している。行き場のなくなつた人々の抵抗は、もはや世界の世論の力を借りなくてはとうじようもないところまできている。



バクンダム建設計画を考える

私が、初めてバクン水力発電所建設計画のことを知ったのは、3年程前。

サラワクで地域社会活動を続けるNGOからの発電所建設の問題を日本でも考えてみてほしいとの協力要請をうけ、それ

に関する資料と何枚かの新聞の切抜きコピー：「バクン水力発電所建設計画で、

立退きの危機にさらされている人々が反旗を翻す！」ボルネオポスト86-2/5

etc. 他、一目みて、ないしん、ぞつとしてしまった、Englishで書かれた沢山の資料が集まってきた。

それまで以前にも、サラワクで何か所か発電所建設計画が持上っているというこ

とは知ってはいたものの、これ程、自分の身近にこの問題がやってくようとは思って

思ってもいなかった。それに、

訪問がなかった。

バクンダム？ いったいその計画は、どの程度まで進んでいるのか？ サラワクのどこに建設が予定されているのか？

うえーん！ 私には、わからんワイ。問題が大きすぎる。(私達のサラワクとの交流もそろそろいろいろな問題に目を

向けていかなければいけない時がきているのか。)

ともかく、何かをはじめなければ。資料をてわけて読んでみる、新聞記事を訳し、印刷物をつくり、葉書での反対

署名キャンペーンを自分達の周囲からはじめた。でも、何かすつきりしない、

やっばり、誰か実際に行ってみてこなければ……ブラガへ。

1987年8月とうとう念願のブラガ訪問がなかった。

この年は、新聞などでも森林伐採問題が大きく記事に取上げられはじめた年のように思えるのは私だけかしら？

サラワクで最大の川、ラジャン川を船で丸1日かかって上流のブラガへと

その日は、近くの村で泊めてもらい、翌日、ロングボートで、約2時間急流

を越えたどり着いたダム建設予定地。そこに静かな自然の姿があった。昨

日から今日にかけて、川の兩岸にみたいくつもの、伐採キャンブや切出され

たあとの赤土のむきだしになった山肌を、まのあたりにしたショックが残っている。

ので、余計にその自然の姿に静けさが身にしみる。私達が、立っている所から

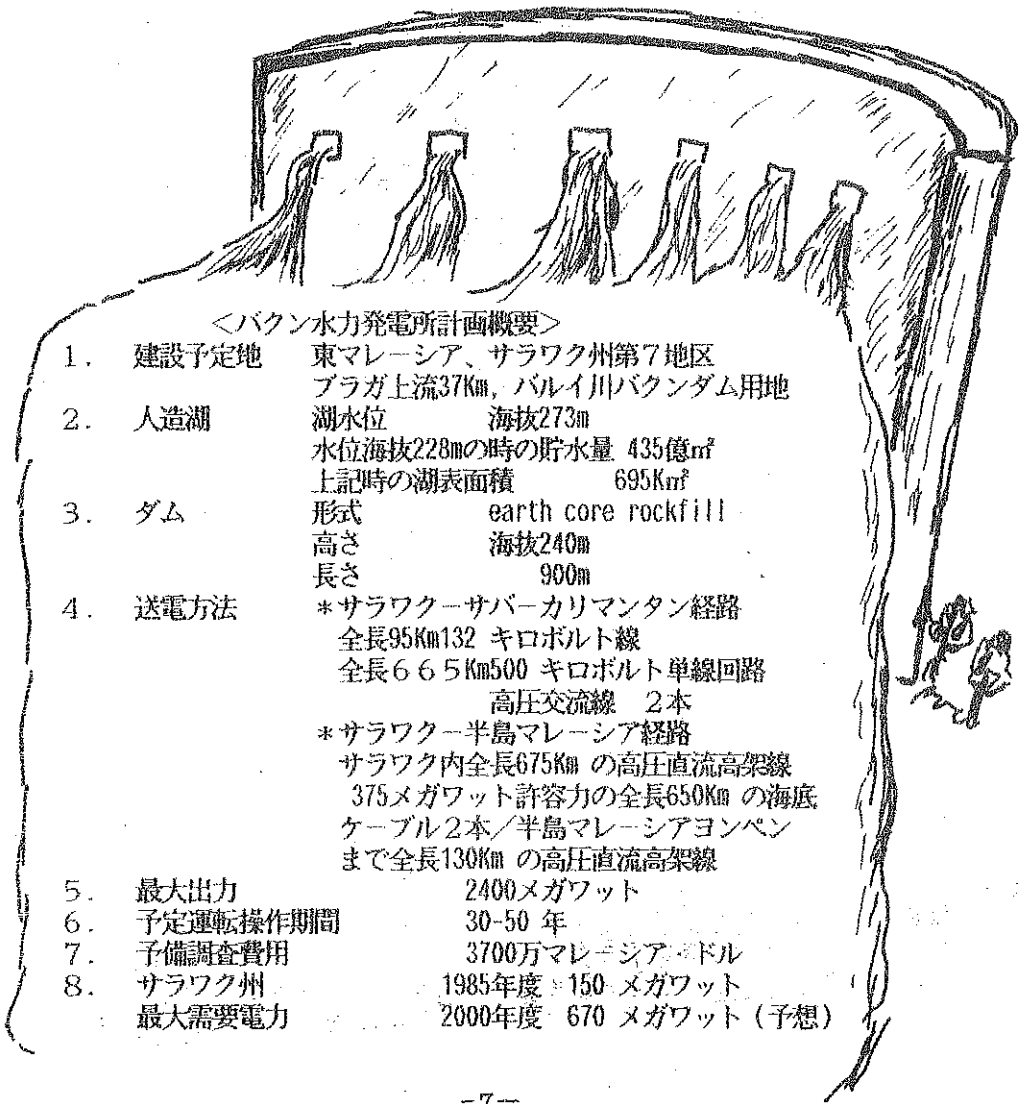
見えるのは深い緑のジャングルと山間を

脈打つように流れるコヒー色の川。

そして、そのジャングルのなかに、何百年もの間、自然と共に彼等の文化を守りながら、生活しつづけてきた人々いることを忘れていけないそんな気がする。バクンダムが建設されれば、この辺りを中心にシンガポールと同じ大きさの人工湖ができ全てが水没してしまうことになる。

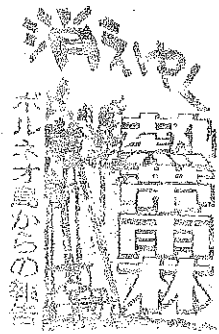
いまのところ、このダム建設は延期されている、膨大な資金の問題のために。そして、今、私達が気付かなければならないことは、この様な開発計画には、必ず、日本の資本と企業が加わっているということ。外国で起こっている人ごとではなく、目を向けていかなければいけない問題なのではないだろうか。

(鈴木 千里)

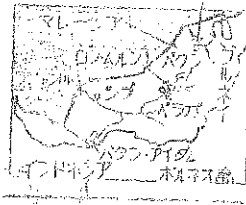


<バクン水力発電所計画概要>

1. 建設予定地 東マレーシア、サラワク州第7地区
ブラガ上流37Km、バルイ川バクンダム用地
2. 人造湖 湖水位 海拔273m
水位海拔228mの時の貯水量 435億 m^3
上記時の湖表面積 695Km 2
3. ダム 形式 earth core rockfill
高さ 海拔240m
長さ 900m
4. 送電方法 *サラワクーサバ-カリマンタン経路
全長95Km132 キロボルト線
全長665Km500 キロボルト単線回路
高圧交流線 2本
*サラワクー半島マレーシア経路
サラワク内全長675Km の高圧直流高架線
375メガワット許容力の全長650Km の海底
ケーブル2本/半島マレーシアヨンペン
まで全長130Km の高圧直流高架線
5. 最大出力 2400メガワット
6. 予定運転操作期間 30-50年
7. 予備調査費用 3700万マレーシア・ドル
8. サラワク州 1985年度 150メガワット
最大需要電力 2000年度 670メガワット(予想)



ボルネオ島からの報告



ボルネオ島は、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。

ボルネオ島は、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。

ボルネオ島は、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。

ボルネオ島は、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。

ボルネオ島は、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。

河原で美しい森(おら)の
 口を離れて、森の女性、
 高床式のロングハウス、
 サバを食す、ケニヤ族の男
 性……ロングハウスの先住民
 族の様子が、文化に感服
 した。ボルネオ島上流コ
 ン・ムルのカヤン族のロングハ
 ウ族、とびわけ形の家だ
 った。高床を二階建ての
 色のビニールのねんねや、
 きれいな布を飾らした。ス
 タが、動物の骨を彫った
 ラン(山ガ)な目が、ま
 ました。川べりで舟大工の
 ハンさんが丸舟を造って
 た。

6 の不

森の人追うダム計画

彼女が心配するのはハン
 タム計画だ。ペラガが三
 七、ラジャン川の支流に巨
 額(六億)の巨費で七万三千
 打ボルトの大ダム、二
 千四百ワットの水力
 所を造り、世界最大
 世界最大の海陸ゲート、
 島マレーシアなどに送
 る。このアジア最大規模
 の巨大プロジェクトの
 のダムが造ると、ペラガ
 感させた。
 「ハンタムは、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。」
 「私の町、私の村を壊す
 計画だ。ハンタムは、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。」
 「ハンタムは、南緯に赤道の
 万の二ヤ、カヤン族等十
 五カ村、五十二のロングハ
 ウ族、五十二のロングハ
 ウ族を擁する。五千人が
 われを支配する。ハンタ
 ンのロングハウスもその一
 である。」



「森の人は、生活を」
 カヤン族の女性、手から
 マレーシア、サラワク州、
 ペラガ地方で

奪われた大地・フィリピン(3)

売られていく森林

「アー、ランソネス」「アーア、マンゴー、マンゴー」と、ミンダナオ島ブトゥアン市の少年や少女たちが、通りかかる人々に声をかける。このフィリピンだけでなくアジアの街角では、物売りをする子どもたちをあちこちで見かける。小学校に行く位の子どもたちは果物売りばかりか、新聞紙売り、一本タバコ売り、そして車洗いやなどをしてる。

何人かの子どもに聞くと、「家の収入になるもの……。それにおごすかいても少し貰える時があるから」という答が、はにかんだ顔から返ってくる。「一日働いて約一〇ペソ(六五円)ほどだ。

失業者が一〇%を越えるフィリピンでは、それでも家計を支える僅かなお金に違いない。

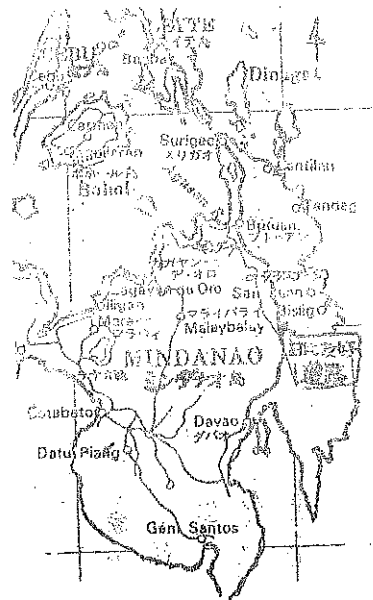
ブトゥアンのメイン・ストリートは幅二五m位の広さで、街にスペインの名残りが漂う。トライシクルを止めて材木工場へと向かう。「戦前」から日本やアメリカなどに材木を輸出していた都市であるから、メイン・ストリートをはずれた所では、家々の前に何百本とバラ売りの材木が並ぶ。マーケットの近くでは、ゴマ塩頭のおじさんが道端に黙って座っていた。

「多く売れる日もあるが、今日は二四〇ペソの売上げだ、ダメだ。雨の日

はもつとひどい」と赤銅色の眼が笑う。彼は製材工場から四フィートの長さの角材をジブニーで運んで、十束にくくって売る。仕入値は六ペソで、八ペソで売るのでそうだ。彼の今日の儲けは一ペソだが、フィリピンで普通に営らしている人々に比べてかなり高収入だ。だから、材木の街がまだ続いているのかもしれない。

ブトゥアン市内に製材工場は、現在一三社もある。アグサン川に面したアギソール・ソールミル社には、三隻の船と何百本の原木が浮かんでいる。

大した幸請の支配人は、「昔は何十隻という船がこのアグサン川を往来し



て、上流から丸太を運んできた。今は原木が少なくなつたので、殆どトラックでこの会社へ搬入している」と。ラウン、ナラ、アピトン、アギスなどの木を年間二三千トンも切り倒して、その跡にパルプ用にもなるファルカッタなどを植えるが、ナラやラウンという樹は植えないという。

製材工場では、長さ七m以上の原木が旋盤で切られ、見るみるうちに木は二〇mの厚さの合板に変えられていく。労働者たちはタオルで口を覆い、したたる汗をぬぐおうともせず黙々と働いている。支配人は「この給与は大変いい。日給で百ペソ以上だから、」と、誇らしげに言う。

アグサン川の対岸には三井フォレスト社が、そして遠くには薄茶色になつた山々が見える。川の周りに点在する粗末な家々。淀んだ川に比べて、青くぬけるような空とココナツ林だけが眩しく美しい。

いたんだコンクリート道路を曲がりくねりながらも、ジブニーは猛スピードで走っていく。バナナ園や茅ぶきの家々はあつという間だ。ブトウアンからダバオへ約三〇分、「日比友好道路」沿いに山々が面してくる。谷合いの部落の近くは熱帯林に蔽われているが、稜線から頂上にかけては樹はまばらだ。茶色に剥き出した山肌が幾つもあるアグサン・デル・ソール州。ここがあのブトウアン市から眺めた薄茶色の山だった。

ジブニーを降りて、小さな部落から急坂を登っていく。何人かの農夫が、鉄条網の中のパーム園や牧草地で働いている。約二時間ほど歩いていけば、広大な伐採跡地が眼の前に拡がった。あたり一面に倒木が棄てられ、樹は根っこから切られて、巻き付いていた蔓草は乾ききっている。二、三本ヤシの樹があるだけで、森は頂上まで薙ぎ倒されて何も無い。鳥も鳴かず、蝶や

虫も舞わない大地。それはここだけでなかった。

「日比友好道路」からはずれ、アグサン川中流域にあたるタラコゴーンの奥の森林もほとんど切られていとう。カボチャを抱えたエミリンダは、「この製材所は昔には盛んだつた。今は原木が減つて、若者たちはブトウアンの街へでていくよ。政府は畑を拓くからと言つたので、ここにきたが、森を切つた跡だから土地は痩せていた。肥料や農薬を無理やり買わされ、借金が残っているので、野菜を作つてこの村にまだ住んでいるのだけれど……」

確か一九七〇年九月だった。大雨が降つて、怒濤のように泥水が流れて来て、この村でも百人近くが死んだ。七年と八一年に洪水が襲つて畑も家も流されてしまつて……。奥の山々で伐採が激しいから、洪水も起こるんだ。その後、多くの人が餓えに苦しんだ。もう、話すのはいやだよ」と、早足で

たち去っていく。

一九七〇年九月、プトゥアン市を含むアグサン・デル・ソール州で約千名が死んだと、プトゥアン市の人々が言う。八三年十月にはモンカヨの近くで三百名が、八四年九月に風水害で土砂崩れによって約千名が亡くなっている。森に保水力がなくなり、二週間以上も洪水がプトゥアン市を荒海のように取り囲んだ。

ミンダナオ島は山が奥深く、幾つも連なっていた。しかし今は、緑に替わす熱帯林の山はなく、伐採が各地で進んでいる。八六年にアキノが丸太輸出の「完全禁止」を言った後でも、このプトゥアンだけでなく、キンググではスタ・クララ社などが、ナシピットではナシピット・ランバー社などが、ダバオではアラス・アサン社やアルカン・タラ・サンズ社などが森を蝕んでいる。フィリピンの外貨獲得のために薙ぎ倒された山々。フィリピンの

経済復興と引き替えに、無数の命を育

んできた森はことごとくなくなつた。生命の森が切られたため、未曾有の死者を出した。畑を開いて野菜を作つても、お金は農薬と化学肥料に変わってしまう。伐採で幾つの生命がなくなつたのだろう。

「戦前―戦後」一時期に溢れるようにやつて来た日本やアメリカの商社。ただ同然で手にいれた土地だから、森を伐採すればするほど儲かるので、止めるはずは無い。木材だけでない、家具も同じ仕組みだ。ナラの原木を加工した家具はミンダナオで一万(六五千円)パソで、日本では同様の物が百万円近くで売られている。誰が儲けて、誰のためにある山が壊されているのか。フィリピンの木材輸出量が減つたとは言え、今でも合板材の輸出先は殆どが日本へ送られている。多くの生命と引き換えにされたフィリピンの合板は、日本の建築現場で二、三度使われたら

棄てられてしまう。

タラコゴーンから帰りのジプニーは砂煙りをあげ、進んでいく。禿あがって今にも崩れそうな山々、そして地力が落ちたラテライトの畑が呆然と通り過ぎて行く。ジプニーに乗りながら、ホセ・シソンの詩をふと思ひ出した。

「生まれてすぐにお前は奪われた

緑の大地を 小川を 新鮮な風を

燃える花々を さえずる小鳥たちを

太陽を 月を 空の星を

この閉ざされた空間で

お前の待つているものは何か

塵と流んだ空気と夜の突然の寒さが

お前におしつけられた

病気の熱だけなのか

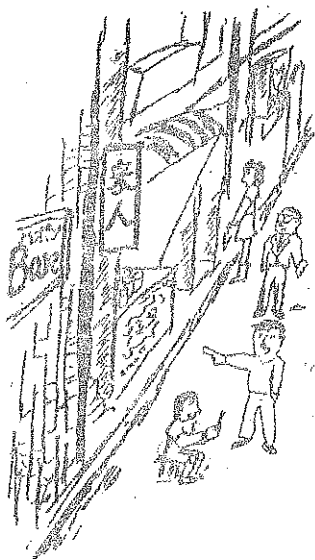
』

籠いっばいに入った野菜と、裸足の子どもたちと、垢まみれの女たちを乗せたジプニーは、こげ茶色の山裾を曲って、青空の風をききっていく。

バンコックのチャイナタウンの風景は、日本とはすくなくからぬ違いはあるのですが、アスファルト、ジャングルそのものなのです。

道路には日本製の車が、まるで洪水の川のように溢れまわって歩いて走っています。信号機がほとんど無いのですから、道路を渡ろうとすると馴れない日本人にとっては、ひとつしか無い生命とひき換えのようなことになりました。

建物の中に構えた食堂などより、貧しい旅行者は道端で客を呼ぶ屋台店で食事を摂ります。日本円にして五十円そこそこで済まされるのですから、これくらい頼りになるものは断じて無い



存在なのです。

日本と変わりの無いアスファルト、ジャングルだと言っても、屋台店を始めとして、日本では想像もつかないような数多くの見馴れない光景を眼にします。

舗道を歩いてみます。三時か四時によつては一皿も自分の意志どおりに歩くことが出来ません。狭い舗道に屋台店がひしめくので、更に道幅が狭くなっていくところへ、屋台店を持ってない貧しい物売りたちが行き交います。

両手に商品をぶら下げている老人、頭の上にお盆をのせて来る若い女、遅い風貌の青年が鈴を鳴らしながらアイスクリームの瓶を積んだ手押し車で

通る。男が通ると影のように寄り沿って声をかける売春婦たち、猥雑と一口

で切り捨ててしまえないような舗道の土は、貧しい人たちが生活の糧を求めようとすると毒でもあるのです。

何も彼がなげきませぬような舗道の前には、対象的な瀟洒な華僑の店が並んでいます。まるで眼の前のそれとは無関係のような潤沢さなのです。夜も更けて華僑の店もシャッターを降ろし、屋台店もまばらになつてゆきます。

あと片付けに慌ただしいのを眺めていて、日本とはまるつきり違う事実が気付きます。残飯が全く無い、割箸の残骸も見当たらないのです。

大阪の盛り場で深夜によく見かける

夕暮からの便り (1)

はつ やすのう

割箸が捨てられて、山のように積みあげられてあるのを想い出すともなしに考えていました。

食べもの屋で箸を使って食事をして、日本だけがなぜか割箸を使って、用済みとなると何の役にも立たなくなつたと、ゴミの焼却場へと運ばれてしまふ。使い捨ての国ニッポンでは当りまえの事で、目くじらを立てる方がどうにかしているのではないかと言うことになります。

どうかしているのではないか、という少数排除の論理の中に、日本人のあの従うことに馴れきつた原型が視えてきます。

人気タレントがテレビで言ったかどうか、「赤信号みんなで渡れば恐くない」という奇妙な言い廻しがもてはやされたり、四〇万の被爆者のためにも、「世界で唯一の被爆国日本」とかみんな従うことに馴れて、怪しげな論

理に何の疑問も持たなくなっています。当然のように反核デモに行った諸君も、その足で戦場に戻れば、産軍共同体の一翼を担って奮闘することになるのですから。

一九四五年八月に、惨めな敗戦を体験して飢餓にあえいだ日本人が、いつの間にかこのような権力志向・反動化を果たしていったのでしょうか。その国民の意識は六〇年代の高度成長期に物が満ち溢れ、その事から来る満足感が批判の精神を失くさせてしまったのでしょうか。

テーブルの上の箸立てから引き抜かれ、一人の食事の相手をほんの数分しただけで、奈落の底へ捨てられてしまふ割箸を手にする日本人の中に、その伐り出されて来た南の国の緑したたる山々を想う人がひとりでもいるのでしょうか。

日本の高度成長は、第三世界の自然破壊が欠くべからざる条件であること

を、批判精神の鈍化した日本人は全然顧みなくなっています。美食は割箸でなければ不可ないという論理は存在しないのです。割箸が地球の緑を確実に滅ぼしているのです。ぼくは秘そかにそう思いながら、今日もチャロンクロン通りの屋台で、割箸ではない竹の箸でラーメンを食べています。

八八年十一月八日



88~89年1月に向け

サラワフの

先住民 81名逮捕される

88年、多くの署名やカンパが寄せ

88年よりサラワフで、ブレン

族をはじめ先住民が、環境破壊の

抗議を行って、政府を逮捕された

（JATANA）をはじめ、私達

も再度、署名とカンパを行うこと

を決めました。少しでも多くのカ

ンパと支援になる署名が必要であ

是非ともお願いします。(N)

(88年、多くの署名やカンパ協

力者)

大山の自然を守る会/小園壽郎

鈴木マギ/PHD協会/井上正

金子順子/井川真理子/浅沢弥生

井下祥子/村上善夫/早実美

梅尾文子/武田恵子/奥崎左風

松井義子/橋本登子/山内小夜子

岡田慶隆/松島由梨子/奥定男

使い捨て時代を考える会/遠山寛

池田正枝/吉永晴子/アミアア

田中順子/かもしかの会/柳澤一

街長常任委員、署名同封し、

緑地開放(林*採)については、

とどろきに注意を促す、

合本阪神都大公園名称同義

はじかす、

谷一能/菅次信天/志田賢司

柴田秀孝/岡本和子/倉沢和子/前田雅子

京都YWC A/久保博典/上坂喜美

雑草島/中野彰孝/丸橋裕/伊東方子

原田礼次/沢製作所/堺市税務部

松永美知子/吉谷幸一/古澤一郎/根

大隈自然教室/紙ひこうき通信/他多数

(88年12月24日現在)

カンパはJATANA手裏分が五万円

直接の郵送分が二万円です。

署名数/一七一四名

カンパ/九三九四の円 支出二五の三の円

以前から、少々関心をもっていたので、

早速、知人に五人で署名を頼みました。

その際、できるに付知れていることも話したけれど

熱帯雨林のこと、今の紙の消費文明のことなどを

討議してみました。

いろんな矛盾の中での署名活動ですが

何かの役に立てればと願っています。

1988年10月20日

後のみならず、頑張ってください。

村行とみ

荒れる森林! → 抗議のブローチ



Blockades down → 31 Natives Were Arrested

POLICE Field Force men on Tuesday removed a timber blockade in Upper Baram put up by a group of protesting Penans.

The security men (中略) were removed.

Last year Penan natives blockaded timber camps in ulu Baram and ulu Limbang claiming that loggers were destroying their hunting grounds. (97-05 / Le Borneo Bulletin)

25 Penan natives were arrested on 10 Dec (Human Rights Day) in Long Lata in Baram and in Marudi town. They were arrested on the morning. At approx, 6 pm on same day 12 of them were released. At present of them are still being detained and are expected to be charged in court soon.

(98-12-12 / Sahabat Alam Malaysia)

10月27日、ブナン族によるバラム川上流の道路封鎖が行われたが、火曜日、警察により取り払われた。ロング・ラティにある数ヶ所の村からやってきたブナンの人々が、サラワク・ティンバー・インダストリー開発会社

道路を封鎖したのだ。森林省は封鎖をどくよう、ブナン族の人々に3日間を与えたが、彼らは警告を無視した。ミリ市の一八層隊から10名程が、森林警官と共に送られた。暴動があったという報告はない。昨年、ブナン族の人々は森林伐採が生活域を掃やかしている、バラム川上流と

↓ 逮捕された先住民への支援カンパを

ンバン川上流で道路封鎖を行ったのだ。
(ボルネオ・ブレイン 88・11・5)

12月10日昼前、25人のブナン族がバラム川の上流やマルデイの町で逮捕された。12名は釈放されたものの、13名は未だ拘留されており、まもなく法廷で責を問われるだろう。サラワク森林令の改正によって、二度目の逮捕だ。25名の逮捕者にロング・レン、ロング・ケボ、ロング・ベルクや他の村のブナン人が含まれている。

(サハバット・アラム・マレーシア 88・12・12より報告)

公判も無責任だ。多額の金をかけて山から下りてきたブナンの人々に突然延期という有様だ。(JATANより 12/23)

87年12名、そして88年81名の逮捕。公判を支えるためのカンパを、お願いします。

(訳・編集部 浦本知明／西岡良天)

会計報告

〇八八年七月〜二月

(牛島)

支出で未払いの郵便費がまだあります。

収入 一三〇八〇〇円

会費 三九〇〇〇円

カンパ 三八三〇〇円

通信売上等 五三五〇〇円

支出 八九七九〇円

会場費 三七二〇〇円

印刷費 二〇六三〇円

郵送費 二〇五六〇円

謝礼金 一一四〇〇円

残高 四一〇一〇円

最近、通信は一〜二ヶ月に一度の割合で、約百部以上発送しています。今後、郵送、印刷費用等がかかります。是非、会員になつて下さい。年会費はこの六月まで千円です。よろしく!

寒いのやら、あたたかいのやら、今年の冬!
皆さん、いかがおすごしですか?
家に こもってばかりいないで、ひさびさに、
みんなで、自然の中で 楽しく過ごしてみませんか!
そこで、ウータンの有志が 提案します。

日時は、 2月5日(日) 午前11時

集合場所 JR高槻駅北口 行先は、 高槻森林観光センター

- 現地での 1) 自分の見近な森を体験、そして考える。
2) 学習会 『地球環境報告』を読んで、生態系の破壊や問題点を批判したり、フリートークなど

〈次回から月一回の学習会を開きます。第2土曜予定〉

問合せ* 鈴木千里まで ☎0727(28)3660

今回は 参加者確認のため、1月31日までに御連絡下さい!

編集後記

今回から「タイからの便り」は、たやすのりさんの現地だよりがたのしみです。ホットなタイですか? 日本で1月7日に天皇が死んで、個人的にドンチャン騒ぎ。職場でもどこでも「騒ぎのN」と、また言われてしまった。うかれてはいけなかった、サラワクで81名の不当逮捕、急かしながら。 (西岡)

しょうむらいことをあぐせくと動き回る日本人、もっとエックリストになりたいよ。お金の使い方をもう考え直さなくてはならない。億の単位をばらばらにばらばらにする、ばばいりのえ? (ちあき) ○○○○

最近、あまり外に出ることがなくて肩が大変なっています。お外に出ようよ。聞けば、日本の林業の現状を知るには、良いところなんだよ。いいかげん、なんやもてまろや。ええやみませんの。 (どうと)